

市原高等技術専門校整備事業の進捗状況等について

千葉県立市原高等技術専門校整備事業概要

## 目次

I	事業の目的	1
II	現在の市原高等技術専門校の概要	1
III	建設予定地の概要	2
IV	施設整備の方針	3
V	配置・平面計画	3～5
VI	整備スケジュール	6

## I 事業の目的

市原高等技術専門校の管理棟、総合実習棟及びビルメンテナンス科実習棟は、施設が老朽化しており、特に総合実習棟は耐震指標（ $I_s$  値）が 0.3 と、耐震性に課題があることから、早急な施設整備が必要な状況となっている。

このため、千葉県県有建物長寿命化計画に基づき、管理棟の大規模改修及び総合実習棟の建て替えを行うことにより、施設の長寿命化を図るものである。

## II 現在の市原高等技術専門校の概要

### 1 建設の趣旨

当校は、京葉工業地帯の造成に伴い、優れた技術者を必要とする進出企業の要望と地域住民の就職促進を図るため、「五井市原職業訓練所」として昭和 34 年 4 月に設立され、これまで 7,000 名を超える修了生を輩出している。

現在は、電気工事科、自動車整備科、溶接非破壊検査科、塗装科、ビルメンテナンス科を設け、変化する時代の中で就職等に必要となる職業能力開発として実践的な技術・技能の訓練を行い、資格取得と企業で活躍が期待される「ひとづくり」を目指している。

### 2 施設の概要

名 称	構造・階数	延べ床面積	建築年月
管理棟	鉄筋コンクリート造・地上 3 階建て	1,782.76 m <sup>2</sup>	昭和 49 年 7 月
総合実習棟	鉄骨造・地上 2 階建て	3,001.28 m <sup>2</sup>	昭和 50 年 6 月
実習棟（ビルメンテナンス科）	鉄骨造・平屋建て	487.50 m <sup>2</sup>	昭和 37 年 3 月
実習棟（ビルメンテナンス科）	鉄骨造・平屋建て	342.92 m <sup>2</sup>	昭和 45 年 3 月
実習棟（自動車整備科）	鉄骨造・地上 2 階建て	928.30 m <sup>2</sup>	平成 2 年 1 月

### 3 訓練科名及び定員

訓練科名（訓練期間）	定員（人）
電気工事科（1 年）	30
自動車整備科（2 年）	23
溶接非破壊検査科（1 年）	20
塗装科（1 年）	20
ビルメンテナンス科（6 ヶ月・4 月入校）	15
ビルメンテナンス科（6 ヶ月・10 月入校）	15
計	123

### III 建設予定地の概要

#### 1 位置図



#### 2 土地の概要

所在地	千葉県市原市平田 981-7 外
敷地面積	15,578.46 m <sup>2</sup>
都市計画区域	市街化調整区域
用途地域	指定なし

#### IV 施設整備の方針

##### 1 総合実習棟

現在の総合実習棟及びビルメンテナンス科実習棟を集約し、グラウンド側に新総合実習棟を建築する。

新総合実習棟の建築後、現総合実習棟及びビルメンテナンス棟は解体する。

##### 2 管理棟

老朽化が著しいため、内外装、電気・給排水・空調・照明・消防設備の改修など、施設の長寿命化を目的とした全面的な改修を行う。

また、バリアフリーに対応するため、多目的トイレを設置する。

#### V 配置・平面計画

##### 1 配置計画

- ・ 現総合実習棟解体後、管理棟から渡り廊下で接続できるように、アプローチの位置に配慮する。
- ・ 現総合実習棟解体後、自動車整備科実習棟を改築できるスペースを確保する。

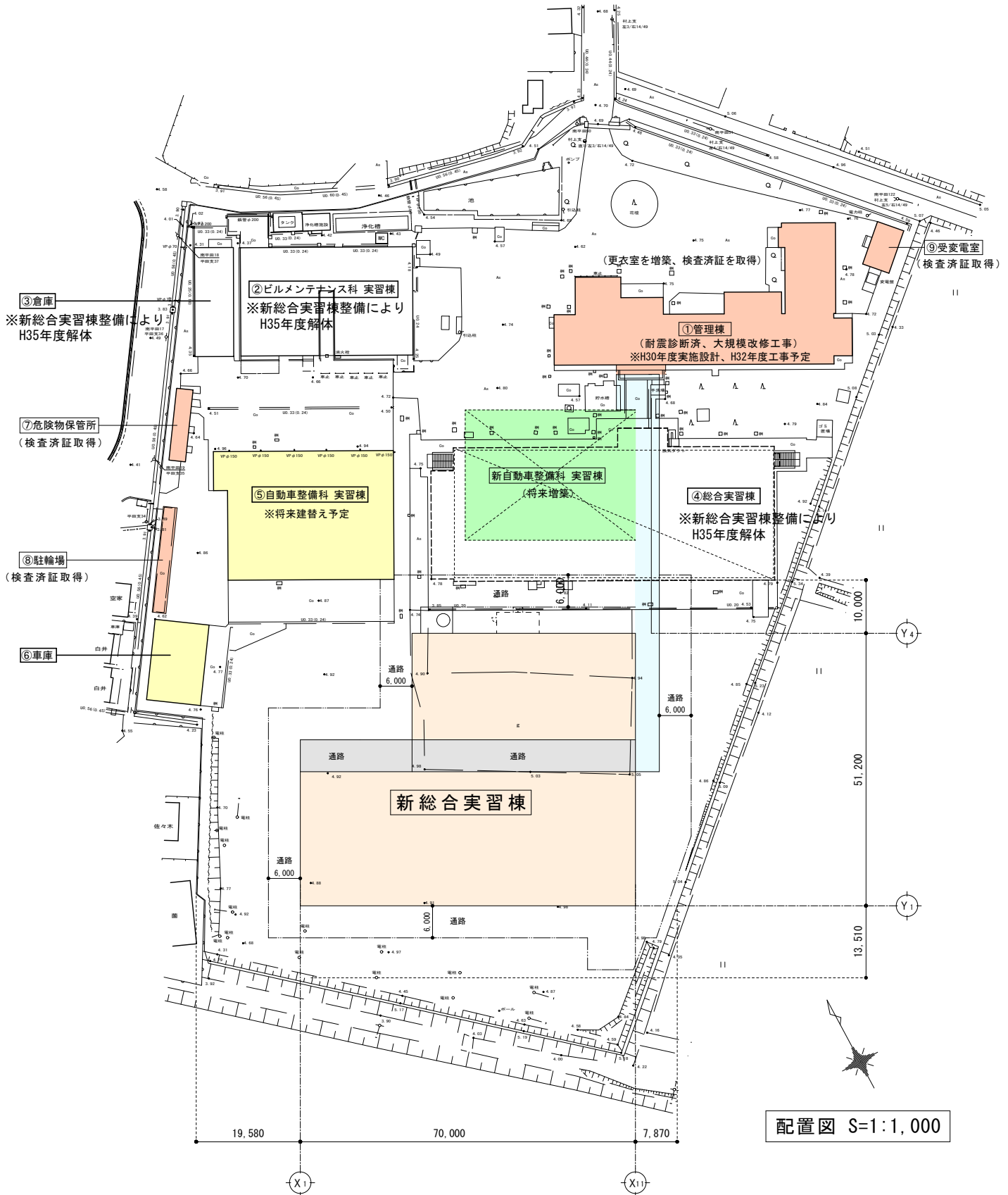
##### 2 施設の規模等

構造・規模：鉄骨造・平屋建て

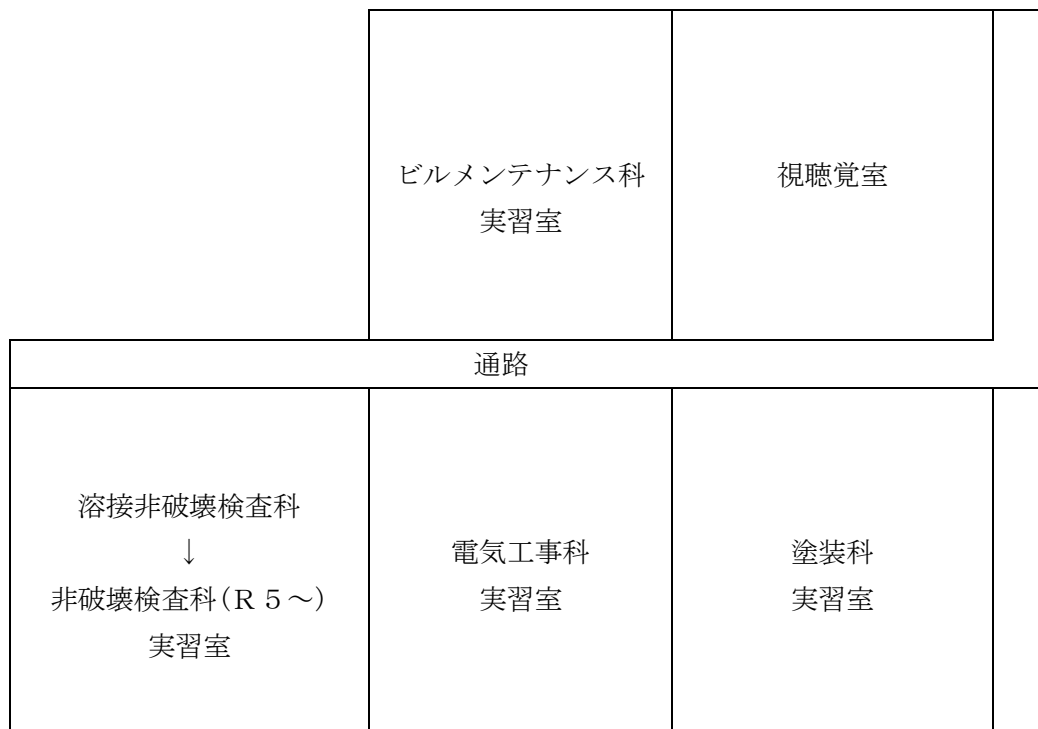
延べ面積：約2,743.82㎡（基本設計）

##### 3 施設配置イメージ

配置計画図・平面計画図のとおり



新総合実習棟 平面計画図



市原高等技術専門校整備事業スケジュール

項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
管理棟	設計	実施設計										
	仮設庁舎		建設	リース	解体							
	改修工事			改修工事								
総合実習棟	設計	基本設計		実施設計								
	新築工事					新築工事						
	解体工事						実施設計			解体工事		外構工事
用地関係	測量等	用地測量										
	その他			家屋事前調査								家屋事後調査